

REPORT III

シンガポールの文化政策に学ぶ

- 独立行政法人を中核に自由貿易都市からCultural Hub Cityへ -

社会研究部門 吉本 光宏

シンガポールは、これまで東南アジアの自由貿易・中継基地として発展してきたが、近年になって、シンガポール政府は文化政策を重視し始めている。今年3月には、リー情報文化大臣がルネッサンス都市宣言をおこない、国際社会を代表する文化都市となるべく、今後5年間で5,000万シンガポールドル（約31億円^(注1)）を新たに芸術分野に投入するという計画を発表した。こうした動きの背景には、自由貿易都市としてアジアの中核となりえたシンガポールが、今後は、芸術や文化の面でもアジアの拠点都市（hub city）の座を獲得しようという姿勢が見てとれる。

また、シンガポールの文化政策は、現在わが国で検討中の独立行政法人的な機関が中心となって推進している点も注目できることから、本稿では、シンガポールの文化政策の基本構造や主な政策・事業の内容を整理した。

1. 政府機関の基本構造

シンガポールの文化政策は、コミュニケーション省の情報大臣とコミュニティ振興省^(注2)の文化大臣が統合される形で1990年に誕生した情報文化省（Ministry of Information and The

Arts、略称MITA）によって推進されている。同省の基本理念（Mission）は、「シンガポールを国際的な拠点都市に発展させるという国家目標を達成するため、情報の交流や教育、エンターテインメント活動を振興し、経済的な活力や社会的な結束力、文化的な活気に満ちた社会を構築する」というもので、具体的な達成目標として「シンガポールのアイデンティティを確立し、多様な文化的財産を活用することによって、シンガポールを情報と芸術のグローバル都市に発展させる」ということが掲げられている。

同省は、シンガポール政府の広報や情報政策を司るとともに、芸術の振興や各種文化事業の実施、文化財・美術作品の保存・公開といった施策を展開しているが、その多くは情報文化省から独立した複数の独立行政法人（Statutory Board）^(注3)によって推進されており、中でも次の二つの機関がその中核を担っている。

- ・国立芸術評議会(NAC:National Arts Council):シンガポールの芸術振興を目的に91年9月に設立。各種文化事業のほか、芸術団体やアーティストへの助成金の支給、文化施設の運営もおこなっている。
- ・国立文化財局（NHB | National Heritage Board):シンガポールの文化財の保護や展

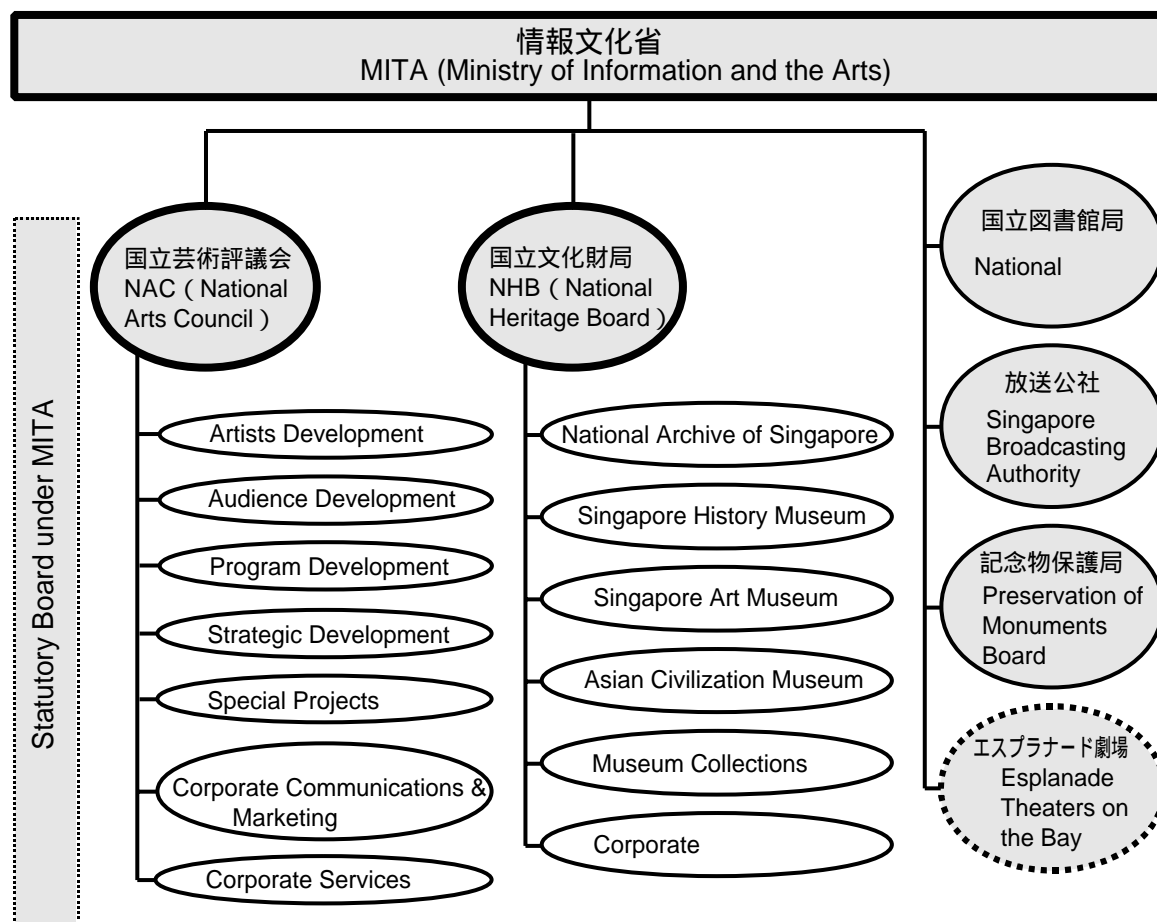
示・公開を目的に93年8月に設立。シンガポール美術館、アジア文明化博物館^(注4)、歴史博物館などの運営を統括している。

この他にも、9つの図書館を管理・運営する国立図書館局 (National Library Board)、シンガポール放送公社 (Singapore Broadcasting Authority)、記念物保護局 (Preservation of Monuments Board) など、情報文化省のもとに設立された独立行政法人で、これらが一体となって、文化政策の推進母体を構成している。

現在ウォーターフロントに建設中のエスプラナード劇場^(注5)も、完成時には独自の独立行政法人として運営することが検討されている。

さらに、国立公園局 (National Parks Board)、シンガポール観光局 (Singapore Tourism Board)、都市開発公社 (Urban Redevelopment Authority) など、情報文化省以外の省庁の管轄する独立行政法人と共同で実施される文化施策や事業も多い。

図表 - 1 情報文化省と文化系独立行政法人



(注) 独立行政法人のうち、文化行政の中核を担うNACとNHBのみ内部の組織構成を記載した。
 (資料) MITA, NAC, NHB提供資料およびインターネット情報により作成。

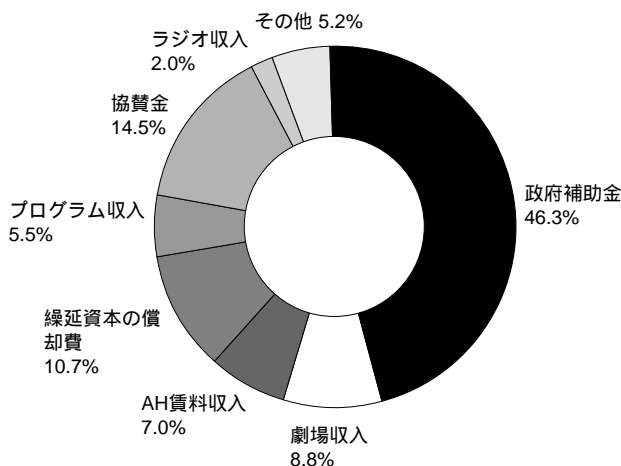
2. シンガポール芸術評議会（NAC）

NACの基本理念は、「芸術の振興を図り、シンガポールを芸術文化の面でも活力あるグローバル都市に発展させる」というもので、7つの部局によって構成されている(図表-1参照)

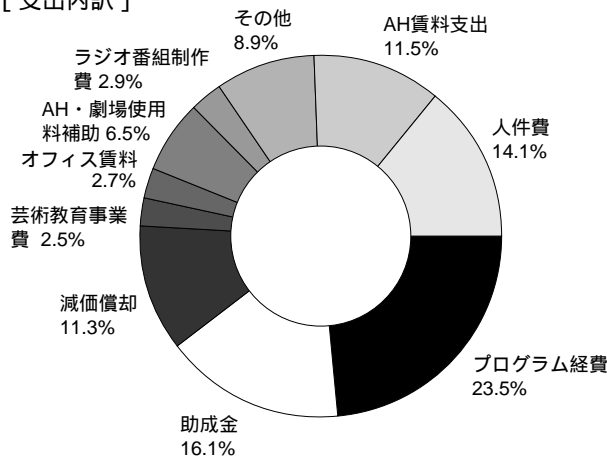
NACの98年度の年間予算は約4,000万シンガポールドル(約25億円)で、収入と支出の内訳は、図表-2に示したとおり。政府からの補助金が5割近くを占めるが、独立行政法人として、劇場の収入や各種事業収入、民間協賛金など幅広い財源によって運営されていることがわかる。

図表-2 NACの収入・支出(1998年度)

[収入内訳]



[支出内訳]



(注) AH: アートハウジング

(資料) National Art Council Annual Report 1998/99

写真-1 Substationの外観



また、主要部局の施策は、図表-3に整理したとおりで、シンガポールの芸術を振興し、市民に幅広く提供するため、多様な事業が実施されている。

これらNACの政策うち、芸術活動のサポート方法として興味深いのはアート・ハウジングと呼ばれる事業。老朽化した公共施設をリニューアルして芸術団体などに安く貸し出すというもので、85年から実施されている。入居団体や芸術家は、施設の所有者である国土庁(Land Office)の設定した賃料の10%を支払い、残りの90%をNACが負担するというのが基本的なスキーム。

このしくみを最初に具体化したのは、サブステーションという施設(写真)で、使われなくなった変電所を芸術活動の拠点にしようと、シンガポールの代表的な劇作家・演出家のクオ・

パオ・クン氏が中心になってシンガポール政府に働きかけ、数年の運動を経て実現したという。現在は、小劇場、ギャラリー、複数のリハーサル室、オープン・カフェなどが設置され、サブステーションというNPOが運営にあっている。この他にも、学校を改修して、劇団の事務所やリハーサル室、あるいはアーティストのアトリエやギャラリーとして利用されるケースなどがある。

これまでに20件の建物が、このスキームを活用して芸術活動の拠点施設に改修されており、現在では、57の芸術団体、28名のアーティスト、2件の芸術機関が入居している。この制度には海外からの問い合わせや視察も多いというが、NACでは今後5～7年の間に、さらに7,000㎡のスペースの改修・活用を計画している。

また、近年NACがとくに力を入れているのが芸術教育事業である。これは、小中高生を対象に、演劇、ダンス、音楽、美術、文学、映画などの芸術プログラムを提供するというもの。参加校や参加者は急増しており、99年度には、240件の芸術教育プログラムが実施され、シンガポール全体の約8割の学校(284校)、約半数の生徒(22万8,000名)が参加したという。参加各校には、シンガポール競馬協会芸術基金から、費用の60%に当たる1万シンガポールドルが助成されるしくみになっている。

この事業には、地元の代表的なアーティストや芸術団体だけではなく、海外の演奏家がプログラムに参加することもあるという。そうした活動の延長として、99年には、シンガポールの代表的な劇団のひとつネセサリー・ステージに

図表 - 3 ナショナル・アーツ・カウンシル(NAC)の主な事業内容

事業内容・部門	主な内容と実績
芸術家の育成 Artist Development	
財政的援助 Financial Assistance	<ul style="list-style-type: none"> 99年度は約1.3億円を、267の芸術家や芸術団体に助成。 ルネッサンス都市宣言に基づき、約3億円を今後5年間、主要な芸術団体に支援。 奨学金制度(99年度は6,300万円を、183人の若手芸術家や学生に支給)
アート・ハウジング事業 Arts Housing	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化した施設を再開発し、芸術団体のオフィスや稽古場、アーティストのアトリエとして安く提供することによって芸術活動を支援。
才能育成 Talent Support	<ul style="list-style-type: none"> 顕彰制度、ピアノ・バイオリンコンクール、小説コンクール。 海外の優れたアーティストに永住権を与え、地元芸術家のレベルアップを図る。 バイオリン(1750年製ガダニニ)貸与制度など
観客・聴衆の育成 Audience Development	
芸術教育 Arts Education	<ul style="list-style-type: none"> 小中高校生を対象に、演劇やダンス、音楽、美術、文学等の教育プログラムを提供。 芸術教育の促進のため、海外から芸術家を招聘し、教師向けのワークショップも実施。
アウトリーチ事業 Outreach Program	<ul style="list-style-type: none"> 芸術活動をより多くの観客や聴衆に届けるため、公園やコミュニティセンターなどで無料の催しを実施。99年度は59回の無料演奏会を実施し、67,600人が参加。 詩の書かれたポスター(54,000枚/98年度)を地下鉄やバスストップ、学校の掲示板に貼り出したり、詩のハガキ(45,000枚/98年度)を学校に送付。朗読会なども開催。 Passion 99.5FMという芸術専用のラジオ放送を開局・運営
芸術文化事業 Programme Development	
芸術文化事業 Arts Programmes	<ul style="list-style-type: none"> シンガポール芸術祭：アジアで最大規模の国際芸術祭のひとつ。99年度は、5月28日から6月30日までの間に約46,000人の観客が演劇や音楽、ダンスなどを鑑賞。 シンガポール・ライターズ・フェスティバル：99年度で8回目。国内外から50名の作家が集まり、朗読会やワークショップ、シンポジウム、学校訪問などを実施。 ノキア・シンガポール・アート：99年度に始まった美術フェスティバル。シンガポール美術館をはじめ、17の会場で、500名の美術作家の作品を展示。 その他のものを含め、99年度の主催イベントは486件、展覧会の延べ日数は596日。
国際文化事業 International Relations / Initiatives	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリアのヴィクトリア州との文化交流事業 地元芸術団体の海外派遣への助成、海外の芸術監督やジャーナリストの招聘 シンガポール観光局と共同で海外の芸術見本市に芸術団体を派遣
劇場運営 Theatre Management	<ul style="list-style-type: none"> カロング劇場(1,744席)、ヴィクトリア劇場(904席)、ドラマ・センター(326席)の管理・運営。

(注) 組織としてはこの他に、特別事業部門、広報・マーケティング、企画開発、総務がある。

(資料) National Arts Council Annual Report FY 1998/99、NAC提供資料等より作成

よって、「演劇をとおした能力開発」というカリキュラムが正規の授業の一環として実施された。こうした取り組みは、プロフェッショナルな芸術家や芸術団体を学校教育の現場につなぐことによって、新たな教育の可能性を生み出すだけでなく、将来の観客や聴衆を育成するという点でも、有効な施策である。

3. 国立文化財局 (NHB)

国立文化財局 (NHB) もNAC同様、シンガポールの文化政策の中核を担う独立行政法人である。NACが音楽や演劇、ダンスなどのパフォーマンス・アーツを中心にした事業を展開しているのに対し、NHBは、美術館、博物館の運営を中心に、シンガポールの歴史的な文化財から現代美術作品まで、幅広い収集・保存・公開活動を展開している。

NHBの年間予算も約4,000万シンガポールドル(約25億円、98年度)で、収入と支出の内訳は、図表-4に示したとおりである。政府の補助金の割合は6割強とNACより高く、入場料収入、ミュージアムショップ販売収入、賃貸収入、寄付金収入など独自の収入は、全体の1割程度にとどまっている。

現在NHBの傘下には、3つの美術館・博物館と古文書館、文化財保存・修復センターが設置・運営されている(図表-1)。組織的にはそれぞれがNHBの一部門となっており、その他に国立ミュージアムショップ部門^(注6)、広報セクションなどが設けられている。

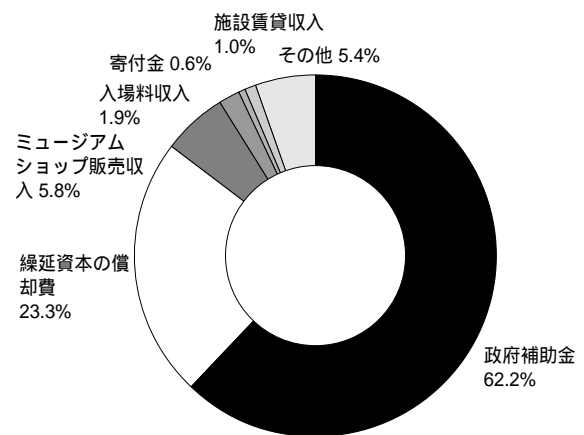
美術館・博物館等の運営は、各館に任されているが、3館共通のパンフレットや展覧会カレンダーの作成、教育プログラムと学校との連携、ミュージアムショップで販売するグッズの開発などはNHB本部が統括している。ミレニア

ム・プロジェクトとして、中心街の歴史的建造物を回る二つの巡回ルートを設け、プルデンシャル保険のサポートによって、約30箇所の銘板を設置するといった事業もNHB本部が推進している。

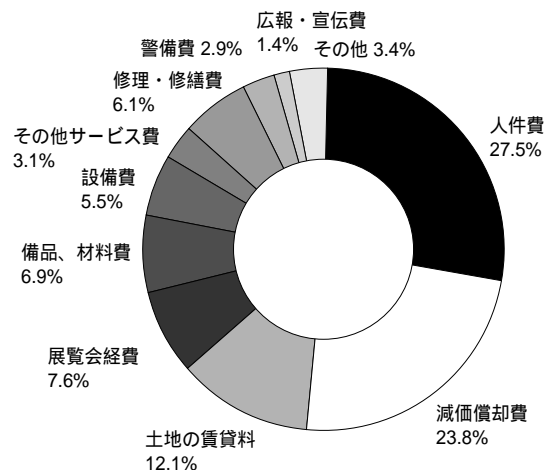
また、NHBも芸術教育プログラムに力を入れている。とくに、各美術館・博物館と学校との連携を重視しており、生徒向けのものだけではなく、教師向けのワークショップも実施している。例えば歴史博物館では、所蔵する史料を紹介し、「トラベリング・スーツケース」と称し

図表-4 NHBの収入・支出(1998年度)

[収入内訳]



[支出内訳]



(資料) National Heritage Board 1998:1999 Annual Report

図表 - 5 ナショナル・ヘリテッジ・ボード (NHB) の運営する美術館・博物館等

名称	概要
シンガポール歴史博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・民族的にも宗教的にも多様なシンガポールの文化財を保存・展示。コレクションは14世紀から近代までをカバー。 ・6才から12才の子供たちを対象に、ゲームやロール・プレイをとおしてシンガポールの歴史や文化財を学べる「チルドレンズ・ディスカバリー・ギャラリー」も設置。
シンガポール美術館	<ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアの近現代美術作品4,000点のコレクション（絵画、彫刻、インスタレーション）を有する美術館。大型の国際巡回展の会場にもなる。 ・教育や交流事業、リサーチをとおした域内の美術振興も大きな目的。
アジア文明化博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・シンガポール国民の祖先である移民の文化を展示・紹介する博物館で、対象は、中国、インド、東南アジアからイスラム文化圏に及んでいる。 ・現在の博物館は中国部門が中心だが、2002年の新館オープンで全体が完成予定。
国立古文書館	<ul style="list-style-type: none"> ・1968年に古文書の保存・管理のために設立。公文書、建築図面、語り伝えの録音記録、写真、AV資料などによるレファレンス・サービスを提供。 ・国立博物館での展覧会と学校向けの巡回展覧会を実施している。
文化財保存センター	<ul style="list-style-type: none"> ・1991年に設立。質の高い文化財保存・修復サービスの提供、国有のコレクションの積極的な公開、文化財保護の重要性の啓蒙、の3つが活動の柱。 ・8万点の文化財を保存。保存・修復研究室も併設されている。

（資料） National Heritage Board 1998 ; 1999 Annual Report、NHB提供資料等より作成

て、生徒が比較力や推測力を身につけ、創造性を発揮できるような授業をどのようにおこなうかといった解説書付で提供している。シンガポール美術館でも、作品をいかに鑑賞し、解説すべきか、そして美術作品が授業にどのように役立つか、といった内容の教師向けワークショップが実施されている。

さらにNHBでは、学校と美術館の結びつきを強化するため、学校向けの会員制度を設けている。生徒数に応じて200～500シンガポールドル（約1.3～3.1万円）の会費を支払えば、その学校の生徒は入場料が無料になるほか、教師と生徒向けのグループ・ガイド・ツアーの実施、各種ワークショップの優先予約などの特典が提供されるようになっている。

このように、NHBは、所管の博物館や美術館、文化財などを、教育活動に積極的に結びつけることによって、通常の授業だけでは実現できない質の高い教育を提供するとともに、シンガポールの文化的財産の積極的活用を図ろうとしている。

複数の美術館・博物館を管理・運営している点、ならびにそれら全体のサービス向上を図ろうとしている点など、NHBは、現在、わが国の国立博物館・美術館で導入が検討されている独立行政法人のあり方にも参考になる点が多いのではないだろうか。

* * *

* このレポートは、日本財団の助成によってAsia Arts Netが実施した「Pilot Research on Cultural Policy of 14 Asian Cities」の成果に基づいてとりまとめたものである。

-
- （注1） 1シンガポールドル=約63円、以下同様。
 - （注2） シンガポールには元々文化省があったが、85年にコミュニティ振興省（Ministry of Community Development）に統合されていた。
 - （注3） Statutory Boardは、法的に設置された独立組織。法人形態としては、評議会(Council)、部局(Board)、公社(Authority)などいくつかの種類があるが、組織の性格から、わが国で現在検討されている独立行政法人に近いと考えられるため、あえて独立行政法人という訳語を用いた。
 - （注4） Asian Civilisation Museum
 - （注5） 1,823席のコンサートホール、1,958席のリリック劇場、複数のリハーサル室、スタジオ等、シンガポール最大の複合文化施設。
 - （注6） ミュージアムショップは、各美術館・博物館内だけでなく、市の中心部に独自の店舗を構えている。